

道連ニュース

2024年12月号 No.216

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

生活クラブ

わくわくまつり開催しました



会場と来場者の様子

2024年10月20日、グランドメルキュール札幌大通公園を会場としてわくわくまつりを開催しました。

今年で40回目の開催となるまつりは「つくる手 食べる手 その手はひとつ」をテーマとし、生活クラブの消費材、組合員活動を市民へアピールする場として、組合員、職員、生産者が協力してまつり開催に向け準備を進めました。

当日は道内外より34の生産者が参加し、組合員スタッフと共に消費材を販売するコーナーを担当しました。消費材販売以外では、組合員が活動をアピールする場として、福祉、自然エネルギーや森づくり、石けん推進への取り組みなど多様な活動を紹介するコーナーを担当しました。

当日は約800人の来場があり、消費材販売コーナーで

は来場者が消費材を手にしながら生産者と話し込む様子や、組合員が来場者へ試食を勧めながら、消費材をアピールする様子が見られました。来場された方々にとって、様々な角度から生活クラブを知ってもらえる機会となりましたが、旧知の組合員同士の交流や生産者、組合員、職員との交流がそこかしこで見られ、組合員、職員、生産者がスタッフとして参加するまつりならではの交流機会ともなりました。

市民へ生活クラブをアピールする場として開催しているまつりは、生産者と組合員、職員が交流する機会でもあり、それぞれ共同購入の意義や価値を改めて感じる場ともなります。コロナ禍以降、徐々にまつり規模を拡大し、それに伴い参加生産者、来場者共に増えてきていますが、まつり開催の意義を忘れずに開催を継続していきたいと考えます。



販売コーナーの様子

こども食堂

チカホパネル展 開催！報告

こども食堂北海道ネットワーク 事務局長 松本 克博

落ち葉！秋の気配の深まる10月18日(金)19日(土)に札幌駅前チカホ、憩いの広場付近にて道行く「道民、市民、観光客、



に向けて道内で広がり続けている「子ども食堂、地域食堂、の取り組みや実例が「パネル」と「パンフ・広報物」の展示、配布で紹介されました。北海道庁保健福祉部、札幌市子ども未来局の後援、全国支援センターむすびえと市内運営者の手による開催も昨年に続き2度目となり、道行く市民、道民の皆さんに改めて「子ども食堂、を知らせる機会として運営団体の多くが広報物によって参加致しました。



左のコーナー写真は昨年以降大きく増えた釧路管内の子ども食堂の広報物を並べた様子です。江別市内エリア、札幌各区エリアのチラシ等をまとめる事でご自分の居住エリアでの広がりや実態をご確認頂き、更なる広がりや支援に向けてそれぞれ「何ができるのか?」を考えて頂くキッカケにもなったものと思っております!

3000枚の広報物配布！500人の入場者で更なる広がりへのキッカケに！

19日(土)生憎の悪天候の為、チカホへの流入人口は普段より増加しているのでは?という印象でしたが足早に目的地へ向かう市民、道民の皆さんが多く、ゆっくり足を止めて見入る!と云った状況を切れ目なく演出する事は難しかったですが耳に慣れ親しんだ「子ども食堂、という掛け声に広報物を受け取ってから目的地へ向かう皆さんが多く見られました。「東区の子どもの食堂は?」「他の子ども食堂はこんな楽しい事を」等々、ご自分が居住される地域での広がり強い関心を持たれる来訪者様も多数おられ、運営協力頂いた市内運営者さんとの楽しい交流も同時に進んだものと思っております。この企画が定着する様、更に沢山の運営者さんの参加を今後も大切にしていきたいです。

令和6年度

北海道・東北地区 行政・生協連絡会議

開催報告

◎地域課題解決に向けて、生協と行政が連携

10月22日～23日、北海道（札幌）を会場に「令和6年度 北海道・東北地区 行政・生協連絡会議」が開催されました。この会議は、少子高齢化、人口減少、過疎化など、地域が抱える複雑な課題に対し、生協と行政が連携して解決策を探ることを目的として7年ぶり（コロナや台風などで中止）に実現しました。

◎コープさっぽろの取り組みが注目を集める！

基調報告では、コープさっぽろが地域と連携して取り組む買物困難者対策、給食支援事業、エネルギー事業などが紹介され、特に移動販売車やスクールランチ事業が参加者の大きな関心を集めました。また、北海道総合政策部からは、北海道が直面する課題と官民連携の重要性、そしてコープさっぽろとの連携事例が紹介されました。

◎全国の生協の取り組みも紹介！

事例報告では、全国各地の生協の被災地支援や地域社会との関わり活動、宮城県との包括連携協定、福島県から東日本大震災からの復興状況などが報告されました。



開催日時：2024年10月22日(火)

※オプション視察企画10月23日(水)

会場：TKPガーデンシティ札幌駅前

参加者：39名

◎厚生労働省もコープさっぽろの取り組みを高く評価！

厚生労働省の社会・援護局地域福祉課の消費生活協同組合業務室長、小野博史氏は、今回の会議に参加し、コープさっぽろの取り組みを高く評価しました。特に、移動販売車やスクールランチ事業など、地域と連携した具体的な取り組みについて、事業構造も含めて詳細な報告を行い、参加者から大きな関心と感動を集めました。

厚生労働省 小野室長は、冒頭挨拶で、朝日新聞の特集に触れ、生協は理念先行と思っていたが、コープさっぽろは、レベルの高い事業実践をしていると評価。また、懇親会の席でも、「生協は社会課題の解決で重要な役割を果たしている。北海道は先進地である。」と高く評価し、「北海道の取り組みを全国のモデルとしていただきたい。」と熱く話されました。



厚生労働省社会・援護局地域福祉課
消費生活協同組合業務室長
小野 博史 様



北海道総合政策部官民連携推進局
参事 藤原 和道 様



生活協同組合コープさっぽろ 組織本部地域政策室
推進マネージャー 海谷 祐二郎 様

◎視察では、コープさっぽろの先進的な取り組みを体感！

2日目の視察では、コープさっぽろの「移動販売車カケル」「コープさっぽろエコセンター」「トドックステーション」「健康診断事業」、北海道はまなす食品での「障がい者雇用」などを視察し、参加者はその先進的な実践に感心されていました。

◎今後の展望

今回の会議で、生協と行政が連携することで、地域社会の課題解決に大きく貢献できることが改めて示されました。今後も、北海道・東北の生協は、地域住民の暮らしを豊かにし、持続可能な社会の実現に向けて、行政との連携を深めていきます。